

「どうすれば先生のように魅力的な話ができますか？」

●あゆっちさんからの質問

西田さんこんばんは。寝る前などに西田さんの動画をよく拝見しています。西田さんの動画は、とても勉強になるとともにとても元気になれます。さて、西田さんにお伺いしたいことがあります。西田さんのとりわけ国会での話し方は、声の大きさも抑揚のつけ方も素晴らしく、聞いていて私も「こんな話し方ができたら友達や先輩の心をグッと引き付けることができるよなあ」と憧れてしまいます。そんな、西田さんの心に響く話し方ができる秘訣を教えてください！

●西田昌司の答え

実は私は、話をするのが大変に苦手です。小さい頃は学校で先生に当てられると、顔が赤くなってしどろもどろになるような恥ずかしがり屋でした。しかし大人になってから、あることがきっかけで府会議員に立候補することになりました。その頃は演説をしたこともありませんでした。演説の練習をするために、原稿を自分で書いて鏡の前に立ち、原稿を読みながら、鏡に映った自分に向かって話しかけました。自分の話が自分にどのように響くか、自分を納得させられるか、といったことを確かめながら、何度も練習しました。最初の選挙の頃の演説は非常に短く、同じことを何度も繰り返し話していました。

それから今日までの約二十年間、朝の街頭遊説を続けてきました。その結果、言いたいことをいくらでも話せるようにはなりました。「今日の街頭遊説は良かったなあ」と自画自賛して酔っている時期もありました。しかし、話せるようにはなっても、聴衆の心を惹きつけられるかどうかは別の問題です。街頭遊説を5～10年くらいした頃ですが、後援会の方から「毎日、街

街頭遊説をやっているそうだけど、誰も聞いていないらしいね。今度、府政報告会を開催するから、普段話していることを我々にも聞かせてよ」との話があり、京都のあるホールで、何百人の聴衆を相手に講演する機会を設けてくれました。朝の街頭遊説をしても、そこを通りがかる人は忙しいですから、足を止める方はほとんどいません。手を振ってくれる人が2～3人いる程度です。私は満を持して講演に臨みました。

そこに集まってくださる人は、私の知り合いや支持者でしたが、講演中に目の前に座っている方々が寝てしまうのです。私は大変なショックを受けましたが、後から感想を聞くと「西田さん、あなたの話はまどろっこしくて、わかりにくいよ。もっとはっきりと話してよ」ということでした。たしかにその当時は、憲法を例にしても、今のように整理ができておらず、まどろっこしい話し方になっていたかもしれません。（今は、現憲法については、占領体制の中で出来た占領基本法であり無効だ、とはっきりと主張しています。）街頭遊説を繰り返すと、話すことは出来るようになりますが、相手の反応に合わせて臨機応変に話す、という訓練はできません。議場での議論のようなものになると、結局は場数を踏む、以外にありません。

「間の取り方」のような技術的なことは、場数を踏むことで習得できます。しかし一番重要なことは、自分の腹の底から出てくる言葉には力がありますが、上辺だけのパフォーマンスで言った言葉は相手に突き刺さらない、ということです。自分の言葉で相手の心をえぐり取る、くらいの気迫がないといけません。「本気になって、真剣になって話す」、この場数を踏めば誰でも心に響く話が出来るとなると思います。

反訳：ウッキーさん

Copyright：週刊西田 <http://www.shukannishida.jp>